

復興住宅需要に関する建築関係者との意見交換（南部アカマツ振興センターの取組）

南部アカマツ振興センターでは、今後の復興住宅等の建築需要への対応の参考とするため、宮古地域の建築関係者との意見交換会を開催したのでお知らせします。

1 復興住宅

宮古地域では、大手ハウスメーカーが営業所を設けるなど、昨年の夏頃までが受注のラッシュでした。しかし、既存の住宅地への建設が中心で、高台移転が進んでいないことから、営業所が撤退するなど、以降は受注が減少していると思われま

す。営業所の撤退には、消費税増税に伴う特需が被災地に限らず全国的に発生することを見込んだもので、高台移転が進む3～4年後には宮古地域でも本格的な需要が起こると予想されています。また、宮古地域の復興住宅建設は、これまでは大手ハウスメーカーが多かったものの、本格的な復興需要に向けてローコスト系ビルダーの進出により、さらに競争が激しくなるものと予想されます。

2 災害公営住宅

災害公営住宅については、宮古以南は土地が少なくRC造、宮古以北が木造中心となっています。RC造の場合であっても内装・収納・下地等に使用されており、地域材が利用される仕組みづくりが期待されています。

一方、JAS認証工場はあるものの、経費問題や民間における必要性の低さから実際の流通量は多くありません。しかし、公共建築物木材利用促進法という大きな流れの中で、円滑に地域材を供給できる体制としておくことが必要という指摘がありました。

3 アカマツ材の利用

(1) フローリングに使用する要望はありますが、乾燥材工場が少なく、流通量の多いスギ材と比較して在庫を作ることができず、すぐに採用できないという課題の指摘がありました。

(2) 青変材について、強度に問題は無いことから、見えない場所での利用提案がありましたが、実際建築に携わる立場では感覚的に使用したくないとの意見がありました。また、「是非赤松材を利用したい」という工務店は少ないのではないかと指摘もあり、通年出荷の体制も含めたアカマツ材のPRも必要です。

4 今後の復興需要に向けて

今後、本格的な需要を迎えるまでに地域の工務店や製材所ができることの一つとして、乾燥材を数種類の標準サイズに加工、建具や枠材として準備し、工務店が共通仕様として採用するという方法が提案されました。共通化された製品を複数社で供給することで地域全体としての在庫につながる可能性があります。

地域材の安定供給に向けて、引き続き、地域内外の多様な業種による意見交換を実施していきます。



意見交換のほいぬぐだまりの家の見学も行いました